



野田市、女兒虐待死で検証報告書

連携不足、介入できず

2020/1/23 23:03 (JST)

©一般社団法人共同通信社

トピック

社会

任意聴取で横領容疑認める

中村哲さんに福岡県民栄誉賞

年金額0.2%引き上げ

このトピックを見る >

ラベル

#社会

#栗原心愛

#野田市

#女兒虐待死

#検証報告書_連携不足

① ×



栗原心愛さんの虐待死事件を巡り開かれた合同委員会を終え、記者会見する鈴木秀洋委員=23日午後、千葉県野田市役所

特養と老人ホームの違いは

ベネッセスタイルケア

高齢者施設を種類別に比較！資料請求で施設の選び方冊子も無料プレゼント

サイトを見る

千葉県野田市立小4年の栗原心愛さん=当時（10）=が昨年1月に虐待死した事件で、同市は23日、専門家による検証報告書を公表した。報告書は、2017年11月に一時保護されてから、少なくとも13回、行政機関が命を救うために介入すべきタイミングがあったが、連携不足や危機感の欠如から適切な対応ができていなかったと指摘した。心愛さんが死亡してから、24日で1年。

13のポイントとして、一時保護解除の決定や、父勇一郎被告（42）=傷害致死罪などで起訴=が心愛さんが暴力を訴えたアンケートの存在を知っていると気付いた時点などを列挙し、児童相談所など対応の不備を指摘した。

気象予報士のぼんぼる南極

本記事には、ノアドット株式会社が「プライバシーポリシー」に定める「アクセスデータ」を取得することを含む「nor.利用規約」に同意する必要があります。

同意する

データ取得は拒否

「これは何？」という方は [こちら](#)

連携不足や危機感欠如指摘 女児虐待死、野田市検証

2020/1/24 0:35 | 日本経済新聞 電子版

千葉県野田市立小4年の栗原心愛さん（当時10）が昨年1月に虐待死した事件で、同市は23日、専門家による検証報告書を公表した。報告書は、2017年11月に一時保護されてから、少なくとも13回、行政機関が命を救うために介入すべきタイミングがあったが、連携不足や危機感の欠如から適切な対応ができていなかったと指摘した。心愛さんが死亡してから、24日で1年となった。

13回のタイミングとして、一時保護解除の決定や、父の勇一郎被告（42）＝傷害致死罪などで起訴＝が心愛さんが暴力を訴えたアンケートの存在を知っていると気付いた時点、亡くなる直前の冬休み明けの欠席などを列挙し、児童相談所や野田市などの対応の不備を指摘した。

例えば、心愛さんが受けた虐待の中には、勇一郎被告に口や鼻をふさがれ「なかなか息が止まらないな」と床に押しつけられるという重篤なものもあったが、児相はこの行為を把握しながら一時保護を解除しており「危険度の評価が甘かった」とした。

勇一郎被告にアンケートを渡した対応では、市教委と学校の連携がなく、児相などへの報告も怠るなど「子どもより自分や組織を優先させたと言われても仕方がない。教育者としてあるまじき対応だった」と批判した。

冬休み明けの欠席については、学校や市が「不自然さに気づき、滞在先とされた沖縄に連絡すべきだった」とした。

報告書は23日、市が設置した幹部や有識者らによる合同委員会に提出された。報告書を作成した日本大危機管理学部准教授の鈴木秀洋委員は、「自分が担当者だったらどのように救えたのか、羅針盤のように使えるように具体的なアドバイスを書いた」と話した。

〔共同〕



東京で準備完結! 関西の結婚式



2020
1月24日 (金)

東京都(東京)
14℃ / -℃
降水確率: 10%

時事ドットコムニュース > 社会 > 「公的機関への不信感」背景に 心愛さん死亡1年で報告書―千葉



コメント

小 中 大

記事/キーワード

オフィス版

「公的機関への不信感」背景に 心愛さん死亡1年で報告書―千葉

2020年01月23日21時57分



【江戸川区】レア案件 日曜×隔週勤務 消化器科 内視鏡検査,内科...
一回 40,000円 消化器科 消化器外科
メディウェル/医師/バイトドットコム

ミドリ安全
.com

すべてが**安全!**

▶ 今すぐチェック!

千葉県野田市の小学4年栗原心愛さん＝当時（10）＝が虐待死した事件から24日で1年となるのを前に、市などの対応を検証する再発防止委員会が23日開かれ、「心愛ちゃんの命を奪ったのは、公的機関に所属する大人への不信感だったと言っても過言ではない」とする検証報告書を公表した。

報告書は、委員3人が市職員らに実施した個別ヒアリングや、県による児童相談所職員へのヒアリング記録を参考に作成。心愛さんを救うことができた可能性として、「そもそも一時保護を安易に解除すべきではなかった」など13点を挙げた。

心愛さんは2017年11月、小学校のいじめに関するアンケートに「お父さんにぼう力を受けています」と回答したが、18年1月に市教委が父親にアンケートのコピーを渡したことについては、「子どもへの裏切りだ」と非難。「学校は当事者意識を持つ必要があった」などと指摘した。

県や児相など関係機関の問題点も指摘。「心愛さんの一時保護を解除した時の児相の決定と児童福祉司の方針に食い違いがあり、決定の根拠などを明確に記録すべきだ」などとした。

会合後、日本大学准教授の鈴木秀洋委員は記者会見で、「父親や心愛ちゃんの気持ちを理解しようとしながら、二度と事件を起こさないために何ができるか全力で考えた」と述べた。

[【社会記事一覧へ】](#) [【時事ドットコムトップへ】](#)

[利用規約を遵守の上、ご投稿ください。](#)

コメントはこちら (最大500文字)

【URLの貼り付けは禁止です】

0/500

名前(任意30文字以内)

新着順 ▼

フォーカス



3回戦へ大坂なおみ



キャッツに天皇ご一家



佳子さまキルト鑑賞



運動やめれば終わり



弾劾視聴者1千万人超



EU離脱法成立



完璧主義って悪いの?



河井夫妻に1.5億円



穴戸錠さん死去



「大学で経済学んで」



望結&紗来 本田姉妹



電車トイレに要注意

【センバツLIVE!】きょう出場校決定 運命の瞬間を15時から中継

野田女児虐待死 「理解に苦しむ」検証報告書で市、児相の連携不足指摘

会員限定有料記事 毎日新聞 2020年1月24日 10時29分 (最終更新 1月24日 10時29分)

社会一般 沖縄県 千葉県 岡山県 滋賀県 社会 速報



千葉県野田市の再発防止合同委員会に出席する委員ら＝野田市役所で23日、橋口正撮影

千葉県野田市で小学4年の栗原心愛（みあ）さん（当時10歳）が親から虐待され死亡した事件は24日、発生から1年を迎える。23日の同市の再発防止合同委員会に提出された専門家による検証報告書からは、市も県柏児童相談所も求められる役割を十分に認識せず、情報共有や積極的な調査も行わなかった状況が浮かんだ。【町野幸、橋口正】

女兒は、学校のいじめ調査アンケートに「お父さんにぼう力を受けています」と記入したことをきっかけに2…

この記事は有料記事です。

残り2164文字 (全文2372文字)

今だけお得のスタンダードプラン2カ月目も100円
福得キャンペーン大好評！

いますぐ登録して続きを読む

または

登録済みの方はこちら

田 デジタル毎日

どうする **健康格差社会**

「90歳超え日本人女性の7割は認知症」という事実

なぜ命の格差を生むのか

医療プレミア連載

“風しん”はなぜ怖い？40代男性を中心に流行中～政府広報 [PR]
簡単な質問に答えるだけで信用力が点数でわかる AIスコアとは [PR]
インストール台数無制限！コスバ良しのセキュリティ対策とは？ [PR]
アンケートに回答しポイントをGETしよう～毎日アンケートパネル [PR]

おすすめ記事



医学部受験専門予備校
プロメディカス

完全定員制
クラス授業8名、1対1完全個別授業

医学部合格 227名

新年度生募集中
個別相談受付中

Timeline

毎日新聞のアカウント

RSS

新聞宅記申し込み

デジタル申し込み

ピックアップ

PR

毎日アンケートパネルの登録はこちらから！ポイントを貯めてギフトカードに交換しよう！

ショコラの祭典「サロン・デュ・ショコラ」開催中 運命の一粒と出会う7日間！

話題の記事

植松被告、接見に「一人で裁判受けたい」 遺族調書は「悪口ベース」 相模原殺傷



相模原殺傷 植松被告の変貌ぶりに衝撃受ける友人らの証言紹介



大阪・箕面市がテレビ朝日に抗議 滝の水「トンネル掘ったら少なくなった」発言



powered by CXENSE

アクセスランキング

1時間 1日 1週間 SNS 動画 写真

毎時01分更新

【千葉】

野田・小4女児虐待死、児相対応を問題視 第三者委員ら報告書に記述

2020年1月24日



合同委の会合に臨む第三者委員ら＝野田市役所で

野田市の小学4年栗原心愛(みあ)さん＝当時(10)＝が死亡した虐待事件を検証する市の「児童虐待事件再発防止合同委員会」の第三者検証委員が23日にまとめた報告書は、市教育委員会や県柏児童相談所の対応を批判。「命を奪ったのは、公的機関に所属する大人への不信感だった」と指摘した。(山口登史、林容史)

報告書では、柏児相の対応を問題視する記述が多く見られた。二〇一七年十二月に柏児相が心愛さんの一時保護を解除した後の方針について「児相の決定と担当児童福祉司の方針にそごがあった」と市に正確に伝わっていなかったとした。

一八年四月に児童福祉司が交代した際、父親の勇一郎被告(42)＝傷害致死罪などで起訴＝に、心愛さんが元気であることが一定期間確認できれば、児相として関与を終えるとの内容の手紙を送ったが「市に伝えられていない」。県が、児童福祉司が児相の決定を経ずに出した手紙だったと説明したことに、「そのようなことが許されること自体、大きな問題」と批判した。

心愛さんが「お父さんにぼう力を受けています」など書いたアンケートのコピーを、市教委が父親の求めに応じて渡した点などについても「(市教委内で)対応をどうしていくのか、主体的意識を持って対応する者が誰もいなかった」など厳しい言葉が並んだ。

報告書は、心愛さんが勇気を出してアンケートを書き、助けてもらえると期待したにもかかわらず、適切な対応がなされなかったことに「父から守ってくれる大人が見つからなかった悲劇だ」と意見した。

委員会後、検証委員を務めた鈴木秀洋・日本大学准教授は会見で「命を守るため、具体的な指針を示した」と話した。

[東京新聞の購読はこちら](#) 【1週間ためしよみ】 [【電子版】](#) [【電子版学割】](#)

関連記事ピックアップ

野田市、女児虐待死で検証報告書

連携不足、介入できず

2020年1月23日 午後10時01分



[拡大する](#)

栗原心愛さんの虐待死事件を巡り開かれた合同委員会を終え、記者会見する鈴木秀洋委員 = 23日午後、千葉県野田市役所

千葉県野田市立小4年の栗原心愛さん = 当時（10） = が昨年1月に虐待死した事件で、同市は23日、専門家による検証報告書を公表した。報告書は、2017年11月に一時保護されてから、少なくとも13回、行政機関が命を救うために介入すべきタイミングがあったが、連携不足や危機感の欠如から適切な対応ができていなかったと指摘した。心愛さんが死亡してから、24日で1年。

13のポイントとして、一時保護解除の決定や、父勇一郎被告（42） = 傷害致死罪などで起訴 = が心愛さんが暴力を訴

えたアンケートの存在を知っていると気付いた時点などを列挙し、児童相談所など対応の不備を指摘した。